

平成28年4月22日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、木村、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

# 旧村川別荘だより

109



## 市民ガイド月例会が開催されました

新年度になりました。4月の月例会が開催され、西村さんを中心に、4月と5月分のシフトを調整しました。^^



今年度の5月のGWは、とくに振替休日等は発生しません。ご注意ください♪

## 旧村川別荘市民ガイド設立10周年にあたって

平成18年10月18日に旧村川別荘市民ガイドの活動がスタートしました。今年10周年となります。昨年度の旧村川別荘だより97号において、「旧村川別荘8年半の歩み」をお伝えしました。

今年度はそのことを踏まえ、「旧村川別荘市民ガイド10周年記念事業」として、新館での展示をはじめ、様々な事業を行いたいと考えています。そこで、今年度の行事日程の案をご提示しました。(\*^\_^\*)

\* \* \* \* \*

### ●端午の節供（4月末～5月初）

先月の村川だよりでは「ひなまつり」のことを取り上げましたが、もうまもなく5月です。5月といえば「端午の節供」ですね。旧村川別荘には五月人形があります。まもなく飾りたいと思いますので、楽しみにしててください。



### ●記念展示会（5月1日～10月10日頃まで）

新館の奥の間にて、みなさんのガイド活動をはじめ、旧村川別荘の四季について、佐久間さんがお撮りになっている写真などを中心に旧村川別荘の魅力を発信していこうと思います。題して「記念展示会 旧村川別荘市民ガイドの10年」です。日程についてはあくまで予定ですが、記念展示終了後も常設展

示とします。記念展示開始まで、もうしばらくお待ちください。（^^）

### ●重陽の節句（9月9日）

重陽の節句として菊を飾ると共に注目されるのが、「後の雛」という風習です。



桃の節句（雛祭り）で飾った人形を半年後の重陽の節句で虫干しを兼ねて再び飾り、健康や長寿、厄除けを願う風習で、これが江戸時代に庶民に広がったといえます。俳諧の世界では、「後の雛」や「秋の雛」などが季語となっているそうです。

その時期の気候など状況によりますが、旧村川別荘でも菊の展示を行えればと考えております。

### ●竹灯籠の夕べ（10月7・8日）

昨年は10月の開催としましたが、今年度も、10月の開催としたいと思います。平成25年度は映像や音楽を、平成26年度はレコード鑑賞、コカリナの演奏を披露していただきました。そして、昨年度はコカリナに加え、箏の演奏も行いました。今年度は、楽器の演奏をはじめ、16ミリフィルムの上映会など、また新しいジャンルを開拓できればと思っています。

### ●記念講演会（11月～12月）

我孫子駅120周年記念を兼ねた「我孫子駅と別荘に関連するお話」、また「旧村川別荘の建物について」など、まだ未定ではありますが、何かしらの記念講演会をできたらと考えております。



●ひなのまつり（2月末～3月初）

先日大盛況のもと終了となったことは旧村川別荘だより108号でもご紹介しましたが、また今年度もよりよいものをみなさんと協力して作り上げていければ嬉しいです！！(\*^\_^\*)



●その他

昨年度、新しいガイドとして3名の方が加わりました。今年は10周年ということもあり、さらなる新規ガイドの開拓、そしてこれまでのガイド活動をまとめた冊子編集なども行えればと考えております。

\* \* \* \* \*

最後になりましたが、書いた内容は今年度の行事案です。実際には実現が難しいこともあるかもしれませんが、みなさまのご意見をはじめ、課内でも内容の検討などをしながら、また一年、さらなる歩みを進められたらと考えております。どうぞ、今年度も改めてよろしくお願いいたします。(\*^\_^\*)

連絡・意見交換など

●庭園だより

植物や鳥の紹介、今回も多くの記事を載せてくださいました。

●「ひなのまつり」実施報告

これまでの「ひなのまつり」の来荘者数などをまとめました。別資料をぜひご参照ください。^^

●「景観あびこ」について

\*訂正のお願い\*見開き左ページにある佐久間さんの記事について、真ん中にある花の絵は、“ニホンスミレ”だそう、記事9行目にあるタチスボスミレ(絵)は間違いです。あくまで事務局の方でのミスなので、佐久間さんのミスではないです。すみませんでしたとのこと。

●旧村川別荘パンフレットの改訂のお知らせ

問い合わせがあったときに、教育委員会から送付する資料として、新しいものを作成中です。

●「第16回我孫子アートな散歩市」について

5月7日～22日に我孫子市内で開催されます。旧村川別荘では母屋にオブジェを置き、庭には物を置くとのこと。また、情報が入り次第連絡を入れさせていただきます！※パンフレットを設置します。

●募金箱の周知

文化財基金について、今年度は、より一層発信していきたいと考えています。(HPなどでも周知します。)

●DMについて

来荘者カードについて、イベント時に手紙等を送っているのですか？

⇒ここ1～2年分ほどをまとめて、「竹灯籠の夕べ」「ひなのまつり」について、イベント情報を送付しています。個人で書いていただいた方には、個人宛てに、団体代表で書いていただいた方には代表者宛てに送付しています。

●絵ハガキの配布について

イベント時に行っている募金をした方への絵ハガキ配布ですが、通常時に行ってもよいのでは？  
⇒1回の募金に対して何種類も絵葉書を持って行ってしまう方もいるため、配布を行うにしても、お客様とのやりとりの中で臨機応変に対応することが望ましいと思います。課内で検討します。

●電脳考古博物館リニューアル

3月中旬よりリニューアルしたそうですが、  
⇒この度リニューアルをしました。ぜひ、HPを見てください。内容の更新を含めて、これから様々な情報を発信していきます！

●母屋の縁側の石

お客様から「縁側の石が逆さまになっている」という親切な指摘を受けた。(石が平になっている方が建物側、とがっている方が前ということらしい)⇒大きさ、重さがあるものなので機会を見つけて直します！

●新館入口について

入口の高さがあるので、玄関先に台を置いてほしい。  
⇒いろいろご意見をいただきました。ぜひとも検討していきたいと思っております！

3月の来荘者数

平成28年3月の来荘者数は、1,285人でした。  
(参考) 過去の来荘者数 平成27年3月 955人  
平成26年3月797人 平成25年3月 1,112人

次回の月例会は・・・

平成28年5月2日(月) 9時30分から旧村川別荘新館で開催します。※当初の予定より変更をしています！！※  
よろしくお願いいたします♪



平成28年5月24日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、木村、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

# 旧村川別荘だより

110

## 月例会が開催されました

5月月例会が開催されました。

G.Wも、過ぎてしまうとあっという間です。外に出て歩いたり、時には遠出するのにも、大変良い季節となりました。みなさま、体調などは大丈夫でしょうか。気温の変化が朝夕ありますので、どうぞ気を付けてくださいね。^^



## 千葉県北西部地区文化財発表会

今月は1月30日(土)に開催されました千葉県北西部地区文化財発表会の内容をお伝えしました。9回目となる今回は“これって何?～くらしの中の知恵と技～”というテーマのもと、各市による発表が行われました。

我孫子市の発表は「<sup>こがたませいせき</sup>下ヶ戸貝塚出土小型磨製石斧について」と題して、下ヶ戸貝塚の出土遺物の紹介をメインに行いました。今回は、その一部を抜粋してお送りします。

### ●石おのイロイロ

“石おの”と聞いて、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか?木を切ることや狩りをするとき使用する道具…という荒っぽいイメージが先行するかもしれませんが、我孫子市の下ヶ戸貝塚で出土した“石おの”の中には、私たちの指先の“爪”ぐらいの大きさのものもあります。今回、注目するのは、この“小さな石のおの”であり、その役割とはなんであったのかを様々な視点から見ていきます。



※今回テーマとした小型磨製石斧※

### ●下ヶ戸貝塚

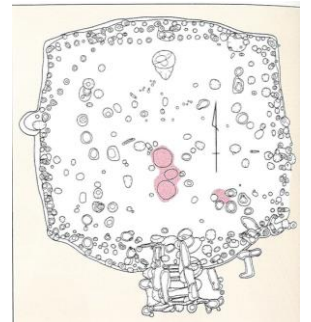
下ヶ戸貝塚は、我孫子市中央、北に利根川を臨む台地上に位置します。台地は利根川の低地に向かった北西方向に突出した舌状の場所で、ヤマトシジミを主体とする貝塚が数か所にわたり存在しています。昭和56年(当時の調査範囲を下ヶ戸宮前遺跡と言います)から平成27年にかけて、11次にわたる調査が行われてきました。



このうち、昭和56年第一次調査では今から約3500年前の住居跡が17軒発見され、北総でも有数の縄文後晩期の遺跡として知られることになりました。

### ●住居の敷物のナゾ

下ヶ戸貝塚の住居跡にはいくつかの種類が認められます。その中でも今回テーマにした小型の石のおの=小型磨製石斧の道具としての利用に関連がありそうな住居が14号住居です。住居は火災を受けたと思われる、壁際には、住居を一周する焼土の堆積がありました。それとは別に、床面に密着した厚さ1cmほどの被熱粘土層が見られました。炉跡に見られるようなものではなく、それは粘土が土器のように変化したものだと考えられます。その粘土敷の表面には、幅1cmほどで断面がカマボコ状の圧痕が縦横に直交し、全面に施されていました。



14号住居

### ●竹と石斧

では、この圧痕はどのようにして作られたのか。ここで“石のおの”の役割が少しずつ見えてきます。住居の床面からは、粘土敷に加え竹類の炭化植物も

検出されました。このことから、床に粘土を薄く敷き、その上からシノダケ（小ぶりの竹）のような細い竹類を縦に半分にするなどしたものを、縦横に組み合わせで敷いていたと考えられています。



粘土敷

そこで、登場するのが石斧です。まず、シノダケなど、竹を半分に割るにはある程度の打撃が必要です。竹の繊維は、縦方向に密に入っているため、加工するには縦に割く必要があります。

金属がまだなかった縄文時代は、狩猟や煮炊きの道具として主に石器が使われていたはずで、そのため、様々な場面で“石のおの”も使われていました。そのため、竹を割く際にも、石のおの＝石斧が使われていたと考えられます。そして、小振りに薄く裂くためには小さな石斧が、大きく割くには、大きな石斧が必要であったと思われます。



小型磨製石斧

下ヶ戸貝塚出土の5cmに満たない小型磨製石斧の刃部には、使用した時にできたと思われる縦方向の細やかな擦痕が認められました。

### ●小型磨製石斧からわかること

#### ～道具としての磨製石斧～

前述した小型磨製石斧には、刃こぼれのような打撃による欠損は無く、ほぼ完形品で出土しています。刃部の痕を見る限り、生活の中での実用品として使用されていたと考えるのが妥当です。このようなことから、小型の磨製石斧が竹を割くのに使われていた可能性も、使用目的の一つとして考えられます。その他にも、小形ナイフのような道具、木材をより細かに加工する道具、木取りの楔としての道具、アクセサリーとしての道具…など、小型という特性があるからこそできる

ことを挙げれば、多くの可能性がまだまだ秘められています。下ヶ戸貝塚からは、残念ながら木製品は出土していませんが、様々な大



下ヶ戸貝塚出土磨製石斧

きさの磨製石斧から当時の縄文人の姿の一端を窺うことができるのです。

下ヶ戸貝塚で出土した小さな“石のおの”は、一見すると意味のないような、ただの「小さな石」のように思われます。しかしながら、縄文時代の人々にとっては必要な道具として、小さなものでも多様な機能を持たせて使用していたようです。それは、手先が器用で物を大切にしている日本人の原点なのかもしれません。

物の歴史を紐解くと、多くの可能性が広がります。また新しい発見などがありましたらご報告したいと思います。!(^^)!

### 連絡・意見交換など

#### ●旧村川別荘だより（佐久間さん）

4月に見られた植物を中心に話してくださいました。「同期の桜」という歌も歌ってくださいました♪

#### ●旧村川別荘ガイド設立10周年記念講演会

12月11日（土）に予定しています。^^ 詳細が決まり次第、またご連絡いたします！

#### ●東葛ふれあいウォークについて

5月14日（土）に無事に終了しました。パンフレットが途中で切れてしまったとのこと、失礼いたしました。(>\_<)

### 新年度のご挨拶

遅くなりましたが、4月の新年度から体制が代わりました。新しい課長に鈴木課長、そして新しいメンバーに木村主査を迎え、新体制となりました。

辻、須藤、田中は変わらずです。今年度も、改めてよろしくお願ひ致します。(\*\_\*)

### 4月の来荘者数

平成28年4月の来荘者数は、293人でした！  
平成27年4月 395人 平成26年4月 365人  
平成25年4月 418人

4月そして5月と団体の来客も多く見られます。シフトの調整もありますので、何かありましたら早めにお知らせください。よろしくお願ひいたします。

### 次回の月例会は・・・

次回の月例会は6月1日（水）9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

5月1日は八十八夜でした。八十八夜は、立春から数え八十八日目にあたる日で、春から夏に移る節目の日、夏への準備をする日…縁起の良い日とされてきました。まもなく夏が近づきます。体調を整えて、毎日を過ごしましょう！^^



# 旧村川別荘だより



平成28年6月28日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、木村、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

## 月例会が開催されました

6月月例会が開催され、6月分・7月分のシフト調整を行いました。

梅雨の時期になり、段々と蒸し暑さも増してきました。体調にはどうぞ気を付けてくださいね。



## 「我孫子・白樺派」という文化空間

今回の月例会では、白樺文学館稲村学芸員より、5月22日(日)に開催された我孫子の文化を守る会講演会で発表した“「我孫子・白樺派」という文化空間”という内容を題材に、重要な部分を抜粋し、原田京平を中心に報告していただきました。

### ●我孫子にとって白樺派とは？

「我孫子・白樺派」という文化空間とは、柳宗悦、志賀直哉、武者小路実篤が我孫子に暮らしたことにより創造された文学・美術サロンの文化空間であり、その時間軸は1914(大正3)年～1928(昭和3)年、空間軸として、ハケの道を中心とする手賀沿北岸地域を中心として定義してその文化空間の形成に我孫子に住んだ志賀直哉ら「白樺派」がいたからこそ、今日の我孫子の文化活動の盛り上がりがあるのではないのでしょうか。

### ●白樺派の拠点「我孫子」

1896(明治29)年に我孫子駅は開業します。当時、東京から75分というアクセスしやすい立地がありました。柳宗悦曰く「我孫子への汽車は上野を発して一時間と十五分で来る。直通の列車は僅か四十分を出ない」と述べています。別荘地としての魅力を感じた嘉納治五郎をはじめ、村川堅固、そして杉村楚人冠などが我孫子の地に降り立ちました。



### ●「我孫子・白樺派」の形成と発展

1896(明治29)年に常磐線が開通し、我孫子駅が設置され、1901(明治34)年には成田線が開通

し、5年後には駅前に製糸工場が設置されます。この時期より、我孫子の近代文化空間が起り、“別荘地”としての我孫子がクローズされていきます。そして下記に示したように、様々な人々が我孫子の地へやってきました。

- ・1907(明治40)年 島田久兵衛
- ・1911(明治44)年 嘉納治五郎
- ・1912(明治45)年 杉村楚人冠

杉村楚人冠が来たあとには、柳宗悦が兼子夫妻とともに移住し、志賀直哉、武者小路実篤も我孫子の地を踏みます。白樺派・民藝の息吹ともいえる時代を作っていました。

### ●出会いと絆の地、創作の地、思索の地

柳、志賀、武者小路はそれぞれ我孫子の時代はどのようなものだったのでしょうか。

柳は朝鮮陶磁器(右写真)との出会いから朝鮮の文化にふれ、またバーナード・リーチに我孫子で仕事をするように勧めたり、濱田庄司とこの我孫子で出会うなど、柳にとって我孫子は「出会いと絆」の地でした。



◆朝鮮陶磁器「梁寸秋堂紋面取壺」  
『白樺』13年9号(1922年9月)

志賀は、父との不和から全国を放浪し、柳の勧誘で我孫子にやってきます。我孫子に来てからようやく父との不和が解消し小説『和解』を発表します。『暗夜

行路』の連載開始など志賀にとっては「創作」の地でした。また武者小路実篤は我孫子には2年ほどの滞在でしたが「新しき



◆「京都山科の志賀邸にて」(原田家蔵)  
後列左から原田京平、志賀康子、志賀直哉、九里四郎、柳兼子、志賀寿々子、柳宗悦  
発会式を我孫子で行います。

武者小路にとって我孫子は「思索」の地でした。

志賀が去ったあと、文化空間は消滅してしまったかに見えますが、ここで、以前取り上げた「原田京平」の時代があったということを改めて注目しています。

### ●我孫子・白樺派という文化空間の継承者

旧村川別荘だより第96号に、原田の生立ちを含めて掲載しましたが、原田京平（恭平・聚文・和周）が我孫子で生活していたのは約7年間（1921年～1928年）。1923（大正12）年からは志賀邸母屋に住んでいました。我孫子は、妻・睦との新婚生活、そして愛娘2人を授かった地でもあります。病気のため、戦前の1936（昭和11）年に40歳という若さでこの世を去りましたが、残された写真や志賀邸に住んだことから、当時柳や志賀と交流があったことがわかります。



### ●歌人として、画家として、文人として…

#### ①歌人として

原田が歌人として短歌を詠み始めたのが大正7年頃。亡くなるまでの20年、短歌を詠みましたが、ほとんどを雑誌等には発表していません。鳥や水、暮らしをテーマに詠んだ歌は、当時の我孫子の風景を詠んだものと考えられています。



◆『雲の流れ』原田和周著  
※和周は原田京平の雅号※

#### ②画家として

太平洋画会研究所→日本美術院洋画部→春陽会と所属した原田は、山本鼎に油絵を師事しました。春陽会は日本美術院洋画部と草土社（岸田劉生を中心とした団体）が合流したものです。このようなことから、様々な場面で白樺派との関わりを持っていたのも原田の特徴です。

#### ③文人として

文人としての側面も持っていた原田の遺歌集である『雲の流れ』には、「油絵から水墨へ」という文章があります。原田は、日本画家として展覧会への出品はありませんが、水墨画などを残しており、今後の研究の注目すべき点といえるでしょう。

\* \* \* \* \*

### ●原田京平研究の広がり

原田京平研究は、まだはじまったばかり。今後以下の点を中心に調査研究がすすめられるそうです。

- ・日本画の存在…各種展覧会の調査、故郷浜松の調査
- ・画家としての評価…師山本鼎はじめ春陽会関係者の評価、雑誌、新聞等の評価等
- ・民藝への繋がり…長女麻耶の染織家大成との関係

また11月には原田京平展第3弾が開催されます！



ついに原田の我孫子の油絵が修復を終えて初公開予定です。我孫子の連綿とした

歴史を紐解く一つのトピック ◆原田恭平「我孫子風景」(修復前)

として、これからも注目していきたいですね！^^

### 連絡・意見交換など

#### ●梅津さん「竹灯籠の夕べ」の絵画紹介

- ・現在ガイドはやっていませんが、絵を描いたとのことお持ちになり、みなさんにご紹介されました。幻想的な、素敵な絵でしたね^^

#### ●旧村川別荘庭園だより

- ・5月の庭園の様子を紹介していただいた。タラノキ、ハハコグサ、チチコグサ…ドクダミ等。

#### ●母屋の踏み台について

- ・アートな散歩市のスタッフさんよりご寄贈いただいたことを伝えた。⇒ちょうどよいとして好評いただいた。

#### ●その他連絡

- ・景観散歩、ぜひご覧ください。
- ・月例会の日には5月2日だったが、今後も変更があるか？⇒5月は変則的にそのようにした。基本は1日とっていただいで大丈夫です。
- ・虫よけスプレーを置いておくのでぜひ使ってください。蜂には十分気を付けてください。

### 消防設備設置のお知らせ

このたび、消火器、自動火災報知器の設置を行いました。母屋、新館それぞれに設置されています。正しく、運用していきましょう！

### 5月の来荘者数

平成28年5月の来荘者数は、**656人**でした！  
 平成27年5月 847人 平成26年5月 388人  
 平成25年5月 456人  
 暑くてジメジメな季節ですが…頑張ってください♪  
 6月そして7月もよろしくお願いたします！（\*\_\*）

### 次回の月例会は・・・

次回の月例会は7月1日（金）9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

まもなく本番の夏がやってきます。体調を整えて、毎日を過ごしましょう！^^



平成28年7月26日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、木村、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

# 旧村川別荘だより

112



## 市民ガイド月例会が開催されました

7月の月例会が開催され、7・8月のシフトの調整を行いました。みなさんのご協力でいろいろと補っていただいたところもありました。ありがとうございます！



今年度も早いものでもう大暑を過ぎました。ここから立秋まで、暑さの期間となるわけですが…今年は果たしてどうなるでしょうか。梅雨明けのカウントダウンといったところですね。

## ～展示会のご紹介～

今月の月例会では、まもなく迎える夏の本番に向けて、“いま気になる展示会”等をご紹介します。いろんな資料館、博物館、美術館へ足を運び、見て、聞いて、何か一つでもガイドへ活かせるものを発見してもらえたらと思います。(\*^\_^\*)

### ① 国立近現代建築資料館

東京都文京区湯島にあります、国立近現代建築資料館は、日本の近現代建築に関する図面や模型等の資料について、劣化や散逸、海外流出等を防ぐ目的として、全国的な所在状況の調査、関連資料を持つ機関（大学など）との連携、資料の収集・保管を行っています。近現代の建築とその資料に対する理解を図っていく資料館です。

現在の展示会「資料にみる近代建築の歩み」を7月31日まで開催中です。

近現代建築は、村川別荘にも通じるものがあるかもしれません。気になる方は、ぜひ足をお運びください。(\*^\_^\*)



2016.5.14 sat - 7.31 sun

資料にみる  
近代建築の歩み

The Development of Modern Architecture in Japan as Seen in Historical Documents

### ② 杉村楚人冠記念館

7月12日(火)～10月2日(日)まで、企画展「ことばに向き合う～新聞記者杉村楚人冠の国語論」を開催中です。現在の日本語に通じるかなづかいや漢字制限の議論を、大正時代当時、臨時国語調査会委員であった杉村楚人冠の資料で振り返ります。

\*夏のワークショップ受付中！\*

記念館を見学して、自分だけのパンフレットを作成するワークショップ(小4～中3対象)。7月30・31日、8月6日開催。詳細は記念館へお問い合わせ下さい。

### ③ 湖北郷土資料室オープン！！

月例会でもお知らせしましたが、7月20日(水)より“湖北郷土資料室”が新しくオープンしました！場所は湖北行政サービスセンターの2階です(別途資料内地図参照)。

湖北地区の遺跡から出土した遺物、その他に民具資料等も展示してあります。入場は無料、1階で受付をしていただき、入室となります。開館時間は平日の9時～16時半(入室は16時まで)。

昔の人々の生活・文化に触れられる、そして感じていただける空間になっていると思います。お近くに来られた際にはぜひ、お寄りいただければ嬉しいです。駐車場もありますので、ぜひ、ご覧ください。よろしくお願いたします！



建物外観



↑ ↓ 展示様子（上は考古遺物、下は民具資料）



#### ④様々な展覧会

その他の展覧会も、東京都内での主な美術館や博物館のスケジュールを別途資料でご紹介しました。記憶に新しいところでは、7月17日に、上野に所在する「国立西洋美術館」が世界遺産に登録が決定し、翌日には大混雑というニュースが流れました。日本での関心の高さが窺えます。

夏は、海や山などの屋外レジャーもさることながら、博物館や美術館、水族館、そして資料館に記念館等、多くの催し物が企画されています。その中には、ただ見るだけではなく、触ったり、実際に作ったりする体験型の施設もあります。暑い夏、外のイベントも楽しいですが、中でのイベントにも足を運んでみると新しい発見があるかもしれません。

私も何力所か、巡ってみたいと思います。(\*^\_^\*)

#### 連絡・意見交換など

##### ●庭園だより

蚊、アジサイ、蟻について、6月の村川邸内の様子をご紹介いただきました。

##### ●電気変えました！

6月某日、みなさんに活動していただいている新館の部屋の電気のカバーが破損してしまいました。そのため、当時の電灯具に付け替えました。数年前に使っ

ていたのですが、様々な理由から押し入れにしまっておりました。今度は蛍光灯なので、以前より明るくなったかと思います。

##### ●火災報知器設置について

先日、母屋と新館に消火器を設置したところですが、この度、火災報知器の設置を行いました。正しい運用に努めましょう。

##### ●蚊や蜂、虫に注意

夏の季節になり、虫も増えてきました。特に蜂には気を付けてください。スプレーを置いてありますので、多用していただければと思います。

##### ●お宝発掘ミニ展示会（2）

7月に一度、アピスタ2階のオープンスペース展示ケース内で埴輪の展示を行いました。それに引き続きの第二弾のお知らせです。展示第二弾は、我孫子地区の縄文土器です。現在の消防本部がある高野山地区周辺の並塚東遺跡で出土した縄文土器を中心に展示を行います。8月2日～8月15日まで。



##### ●母屋に夏の風物詩

鷺見さんご提供の風鈴を新館に飾っています。ぜひ、夏を感じてください♪

#### 6月の来荘者数

平成28年6月の来荘者数は、231人でした。

（参考）過去の来荘者数

平成27年6月	350人
平成26年6月	244人
平成25年6月	408人



#### 次回の月例会は・・・

平成28年8月1日（月）9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

つい先日、社会現象となっている「ポケモンGO」が日本へ上陸しました。（※ポケモン…ポケットモンスターの略称です。）

もしかしたら、旧村川別荘に潜んでいるポケモンを目当てに来荘者が来るかも！？…なんてことをチラッと考えてみた月末の編集Tでした。いずれにしても、使用の仕方には注意してもらいたいですね。来月もよろしく願いいたします☆^^



# 旧村川別荘だより 113

平成28年8月29日発行  
旧村川別荘市民ガイド事務局  
我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課  
歴史文化財担当：須藤、田中  
〒270-1166  
我孫子市我孫子 1684 番地  
TEL:04-7185-1583 (直通)  
E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

## 月例会が開催されました

8月月例会が開催され、8月分・9月分のシフト調整を行いました。

今年は4年一度の祭典“オリンピック”でした。リオデジャネイ五輪は連日メダルラッシュに盛り上がりました。そして、忘れてはいけない甲子園も、毎日高校生の熱い戦いが繰り広げられました。



まさにスポーツの夏でしたね！

## ことばに向き合う

今月の月例会では、杉村楚人冠記念館で7月12日(火)より行っている夏期企画展「ことばに向き合う～新聞記者杉村楚人冠の国語論」と題して、杉村楚人冠が臨時国語調査会委員として関わっていたことを、資料を中心に紹介しました。

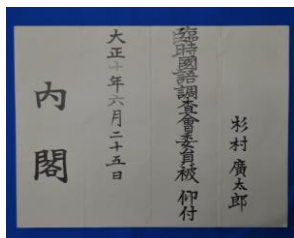
### ●臨時国語調査会とは？

大正10(1921)年に設置された機関で、国語国字問題の検討を開始しました。会員は、主に新聞・雑誌関係者が名前を連ね、その他に文学者や教育家を加えて組織されました。楚人冠も、この調査会の委員として、熱心な議論を交わしていました。

武者小路実篤は、当時議題の一つであった国号統一案について、楚人冠にハガキを出しています。

### ●かなづかい改定とふりがな

新しいかなづかい改定案が発表されたのは、臨時国語調査会が最初です。実際の発音とかな表記のずれをなくし、わかりやすいものを目指しました。しかしながら、古来のことを主張する学者たちから猛反発を受け、その本格的な実現については、戦後の現代かなづかいの実施を待つことになりました。建議の文面では「国語の本態は口語であって、文字はこれを写す道具であります」と述べられています。



新かなづかいの提言は、ふりがなを廃止するために必要な提案でした。しかし、楚人冠はふりがなの廃止については、終生反対でした。これは、読みやすさをはじめ、筆者の意図したとおりに読んでもらう必要、漢字制限の不徹底などが理由でした。

### ●漢字制限とやまとことば

各新聞紙の漢字制限のもととなった新しい常用漢字の提言は、影響の大きな成果で、簡易的な字体採用まで行った新聞社もありました。それほど、漢字制限は重要な課題となっていました。楚人冠がいた朝日新聞社では、書きやすい字と読みやすい字は異なると考え、字体の採用はしませんでした。楚人冠はそれよりも、漢字制限によって、日本固有のやまとことばを大事にする効果があることを社説で訴えたのです。

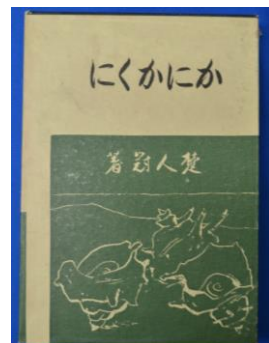
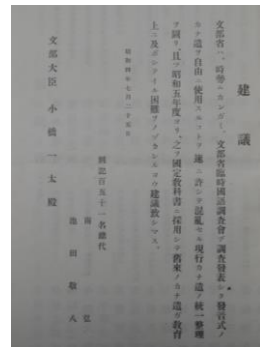
漢字を制限されるというのは、現代においては考えにくいことですが、楚人冠は、制限の結果生み出される新造漢語の使用濫用を抑えること、そして日本古来の言葉を大切にすることを考えていたのです。

＜楚人冠が好んで用いたやまとことば＞

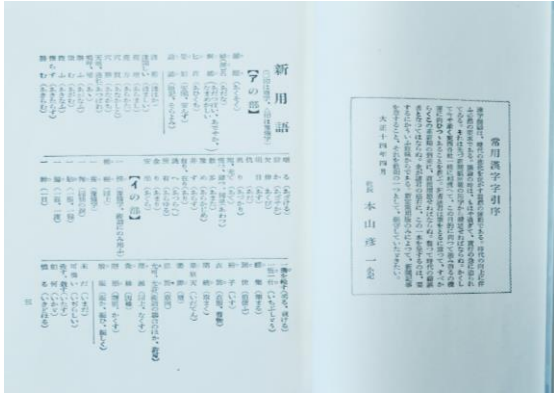
- あふさきさ…行きかうこと
- をちこち…あちらこちら
- かにかくに…とやかくと (写真参照)
- と見かう見…あちら見たり、こちら見たり

各新聞社は、臨時国語調査会が提言した常用漢字の案により、紙面に用いる漢字を定めました。

朝日新聞社も漢字制限を検討、大正14年に実行にうつしました。そして、社説において、



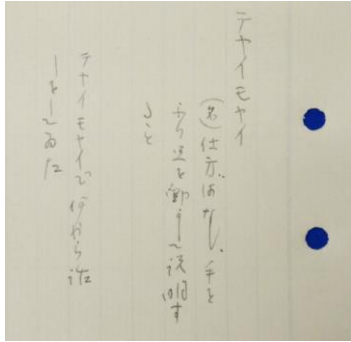
教育、印刷技術、新造漢語の濫用防止の3点からその重要性を説いたのです。



●方言を大切にする

大正時代、教育の現場においては、標準語の普及が図られる一方で、方言の標準語化(=矯正)しなければならぬとする考え

方もありました。その動きに反して、楚人冠は、方言をそのまま記述した作品が多々見られ、方言を尊重していた姿勢が窺えます。そのうちの一つに母から聞き取った方言を整理し、『和歌山方言集』(柳田國男の世話により出版された)として刊行しています。このように、楚人冠は、紀行文などの著作には方言をそのまま記載することが多かったようです。



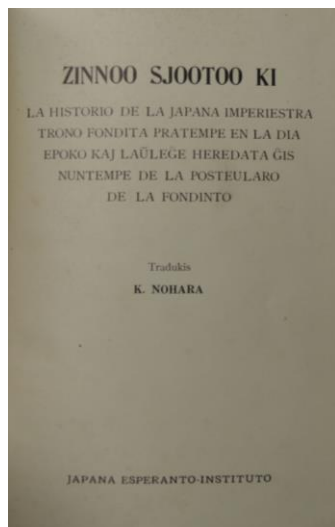
●「世界共通」を夢見た人々

国語についての単なる改良ということに限らず、世界共通の言葉として、文字や言語の普及を目指した人々もいました。

代表的なのは、国際共通語として作られた、“エスペラント”です。

南北朝時代の『神皇正統記』をエスペラント語に訳して出版した人物が楚人冠の旧友にいました。その旧友は、楚人冠が国民英学会時代の友人でした。

様々な言語も登場していた中ではありましたが、



楚人冠自身は、いずれ文字はローマ字になるかもしれないと思いつつ、それは時期尚早と考えて、漢字やかなの表記に着目していったのです。

●まとめ

今日において、日本語はもとより、漢字やひらがなは、当たり前のもので使用していますが、楚人冠が生きた時代は、漢字やひらがなを選ぶことを余儀なくされた時代でもありました。先人たちが徹底的に議論し、育んできた日本語を、いつまでも大切に使用すること、それが今に生きる私たちにとって大事なことではないかと痛感しました。

企画展は10月2日(日)まで開催します。ぜひ、お時間がありましたらご覧いただければと思います。

連絡・意見交換など

●景観あびこについて

- ・会報、ぜひ見てください。創立15周年のことと、景観散歩大多喜町編の感想・写真を掲載しています。
- ・「文巻橋」についてのコラム、面白いです。

\*お知らせ\*

「竹灯籠の夕べ」は、今年10月7日(金)・8日(土)(いずれも17:00~19:00)に開催いたします! 順次、概要等をお伝えしますので、お手伝い等ご参加いただける方は、予定等をご確認いただければと思います。^^

7月の来荘者数

平成28年7月の来荘者数は、172人でした!

平成27年7月192人 平成26年7月125人

平成25年7月170人

残暑も厳しいところですが、…頑張りましょう♪

9月もぜひともよろしくお願いたします!(\*^\_^\*)

次回の月例会は・・・

次回の月例会は9月1日(木)9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

今年は、夏が始まるまでが長かったように思えますが、気づけばその夏もまもなく終わりに近づき、近く9月が訪れます。そしてリオ五輪も一区切りがつき、4年後には東京五輪へと引き継がれます。オリンピックに続いては、パラリンピックが開催されますね。ぜひ応援しましょう~(^\_^)/~



# 旧村川別荘だより



平成 28 年 10 月 25 日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、木村、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL.04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

## 114・115 合併号!

### 今月は合併号です!

10 月も下旬にさしかかり、すっかり肌寒くなってきました。10 月 7・8 日は「竹灯籠の夕べ」も開催され、多くの来荘者の方に旧村川別荘へお越しいただきました(当日の写真は後程…!)

今月号は、9・10 月分の月例会でお話した情報をまとめる合併号です。この 2 ヶ月のことを思い出しながら振り返っていきましょう。(\*^\_^\*)

### 9 月月例会

9 月の月例会では、旧村川別荘市民ガイド 10 周年記念事業として、今後予定しているイベント、刊行物等の紹介を行いました。今一度、お知らせしますので、ご確認くださいね♪

①「旧村川別荘市民ガイド 10 周年記念講演会—村川堅固～人とたてもの一(仮)」

・日時：12 月 11 日(日) 午後 2 時～4 時  
(開場午後 1 時半)

・場所：アピスタホール

講演会は 2 部構成です。

#### ☆「旧村川別荘市民ガイドの 10 年」

旧村川別荘市民ガイドの立ち上げから現在に至るまでの展開についてわかりやすくお話しします。

・時間：午後 2 時～2 時半  
・講演者：文化・スポーツ課 辻

#### ☆「村川堅固の洋行」

村川堅固が明治時代に政府の命を受けて行った「洋行」について、絵葉書や手紙から探ります。

・時間：午後 2 時半～4 時  
・講演者：村川夏子氏

#### ②文化財報告の刊行

・「旧村川別荘市民ガイド 10 周年記念講演会—村川堅固～人とたてもの一」記念講演会の刊行  
…①に行う 12 月 11 日(日) 講演会の内容と市民ガイドの皆さんから集めた文章(「旧村川別荘市民ガイ

ドに参加して」等のテーマで感想文を作成していただく予定です。詳細はまた別途お伝えします。)を基に、3 月末までに刊行したいと思っています。また、お知らせしますので、ぜひご協力をお願いいたします!

③パネル展「旧村川別荘市民ガイドの 10 年」開催

新館の奥の間で開催する予定です。ただいま、準備中につき、しばらくお待ちください。遅くなってしまい申し訳ありません…m(\_)\_m



<新館奥の間 展示替図(案)>

部屋①：旧村川別荘ガイダンスルーム

部屋②：村川堅固人脈パネルや地図、ガイドさんお知らせ等

部屋③：村川堅固、村川堅太郎の本と論文、大光寺貝塚の発掘と土器や埴輪の実物、別荘の四季等

#### ④旧村川別荘市民ガイドの追加募集

10 月 1 日号の広報で告知を行ったところですが、今年も引き続きメンバーを募集しています!

10 月 31 日をもって、一旦締切を設けさせていただきましたが、お知り合いの方やボランティアガイドにご興味がある方等のご紹介、まだまだ募集しています。よろしくお祈りいたします。



秋色に染まる母屋ももうすぐ…

段々秋も深まり、来荘者も多くなっております。個性溢れるガイドを期待しています!(^^)

連絡・意見交換など

●竹灯籠のタペ

・シフト希望表の様式を配布。9月26日（月）までに提出していただく。

・ポスターとチラシを配布しました。

●その他

・JOBAN アートラインポスター

→常磐線 120 周年にあたって作成されたポスターで、旧村川別荘の絵も入れていただき、作成されました。額に入れた形で、後日飾る予定です。

・絵葉書にすれば、また我孫子を売り出すポイントになるのでは？（鷲見さんより）

→月例会後、企画課

に話をしたところ、検討してもらえとのことでした。

→そして、「竹灯籠のタペ」に間に合う形で絵葉書が完成しました！



完成した絵葉書がこちら↑↑

10月月例会

10月の月例会では、白樺文学館の稲村学芸員による今後の白樺文学館での展示情報、イベント情報等を紹介しました。以下にその情報をまとめます。

☆展示情報

・常設展示テーマ

「民藝運動と我孫子」…10月30日（日）まで

・企画展

「原田京平展—我孫子を描きし画家—」

…11月3日（木）～平成29年1月29日（日）

※ガイド団体向け内覧会※（当初より変更有！）

11月4日（金）午前10時からに変更

になりました。（当初は午前11時からとお伝えしていますが、他団体来訪のため変更になりました。）

お時間のある方はぜひご参加ください♪



修復前の絵画↑↑

企画展では、原田京平の絵画について、修復をしましたのでその絵画について展示します。

そして、修復を終えた絵画が下記の写真です。修復前とは大分変わったことがわかります。

『我孫子風景』

（1923）と題材があるのに対し、我孫子のどこの場所を描いているのか…現在調査を進めており、段々とその場所が絞りこま



れてきました。展示会の頃には明らかになるかもしれません。今後、また、新しい発見がありましたら、随時お知らせいたします。

☆イベント情報

・10月30日（日）午後2時から1時間程度  
「朗読のひととき—白樺派を知る—」

場所：白樺文学館地階音楽室

定員：先着20名（要電話予約）

費用：無料（但し入館料がかかります）

内容：柳宗悦「白樺の仲間」

学芸員からのスライド講義もあります。

・11月13日（日）午後2時から1時間程度  
「白樺サロンのひととき—秋—」

※ピアノイベントになります。

場所：白樺文学館1階ピアノサロン

定員：先着20名（要電話予約）

費用：無料（但し入館料がかかります）

ピアノイベントだけではなく、素敵なサプライズもあるかもしれません。お楽しみに…！！^^

・11月27日（日）午後2時から1時間程度  
「朗読のひととき—白樺派を知る②—」

⇒10月30日の続編になります。

・12月25日（日）詳細は後日お知らせします。  
「白樺サロンのひととき—Xmas—」

※朗読とピアノのコラボイベントになります。

・平成29年1月15日（日）詳細は後日ですが、企画展関連イベント「サロントーク 原田京平を追う—故郷浜松・天竜の旅—」を行う予定です。

詳しい内容をお知りになりたい方は、白樺文学館のHPまたは下記電話番号までお問い合わせください。

☎白樺文学館 04-7185-2192

連絡・意見交換など

- 景観あびこについて (吉澤さん)
  - ・会報、ぜひ見てください。村川ガイド募集の件も掲載してあります。
- 旧村川別荘庭園だより (佐久間さん)
  - ・サネカズラやチャノキの説明をしていただきました。

\*竹灯籠のタベ\*

今年の「竹灯籠のタベ」は10月7日(金)・8日(土) いずれも17:00～19:00に開催いたしました!みなさま、ご協力本当にありがとうございました。(\*^\_^\*)



10回目を迎えた「竹灯籠のタベ」灯籠で「10」の文字を作製しました♪

1日目は、SPレコードの鑑賞会、2日目は鈴木鈴子氏を中心に、コカリナとギター、そして初コラボとなる鉄琴との合奏でした。1日目はお天気も文句なしに晴れたのですが、2日目は午後一番に雨が降り、一時中止もやむを得ないとも考えておりましたが、願いが叶って、午後2時を回ってから段々と晴れてきました。足元が心配されましたが、幸い大風等にも見舞われず、会場は竹灯籠の幻想的な灯火に包まれました。終始、良い雰囲気は無事にイベントは終了しました。

いくつか、写真を掲載させていただきます♪  
一日目は、SPレコードの鑑賞会でした。



日本ビクターのマークであるニッパー君と000?? 夢の競演を果たしました(笑)。

静かな夕暮れ時の旧村川別荘に響くSPレコードの音楽、とっても素敵な雰囲気でした。

編集Tが撮影した竹灯籠です。(写真右) まあまあといったところでしょうか?(笑)



二日目は、鈴木鈴子さん、吉田素子さん、藤本亮平さん、八木剛さんたち4人によるコカリナ、ギター、初コラボとなる鉄琴の合奏でした。多くの方が集まる中、澄んだ音色が旧村川別荘へと響き渡りました。



コカリナのソロ演奏は、胸に響きましたね…。



最後の方では来荘者の方との合唱もありました♪♪

来荘者人数は、  
一日目：187名  
二日目：163名  
となりまして、合計人数は350名を数えました。今年は雨もありましたが、無事に開催ができたこと、みなさまのご協力あってこそだと思います。



本当にありがとうございました!!!(\*^\_^\*)

**\*旧井上家住宅のイベント情報\***

平成24年度に市の指定文化財となった旧井上家住宅では、多くの方々に旧井上家住宅を知っていただくため、今後様々なイベントを実施していきます。

☆展示情報

- ・パネル展（常設展示）
- ・日程：平成28年10月1日～平成29年3月31日
- ・場所：新土蔵内（他のイベントにより展示が変わる可能性があります。）

☆イベント情報

- ・公開ラジオ生放送（新土蔵内）  
⇒10月15日（土）に無事終了いたしました。

**『SPレコードコンサート・工事現場見学会』**

<SPレコードコンサート♪>

- ・日時：11月12日（土）

①午前10時から11時 ②午後1時半から2時半

<工事現場見学会>

- ・日時：11月12日（土）

①午前11時15分から12時

②午後2時45分から3時半

みなさまのお越しをお待ちしております！！(^\_^)/



**\*杉村楚人冠記念館イベント情報\***

杉村楚人冠記念館では、夏目漱石没後100年記念企画展「楚人冠と漱石」を平成28年10月8日（土）～平成29年1月9日（月・祝）まで開催中です。先だって、新聞等で話題となりました夏目漱石から楚人冠に宛てた書簡を初公開しています。また、それに伴う講演会も2日連続で開催いたしますので、お時間がある方はぜひ足をお運びいただければと思います。



\* \* \* \* \*

☆講演会情報

杉村楚人冠記念館・我孫子市民図書館共催連続講演会

『没後百年 夏目漱石を語る』（開場はアビスタです）

①「明治末期の新聞と漱石」

- ・日時：12月3日（土）午後2時から（30分前開場）

- ・講演者：有山輝雄さん（メディア史研究者）

②「漱石と杉村楚人冠」

- ・日時：12月4日（日）午後2時から（30分前開場）

- ・講演者：石崎 等さん（立教大学名誉教授）

※白樺文学館において、12月3・4日に限り“志賀直哉宛夏目漱石所書簡特別公開”も行います。

**\*その他のお知らせ\***

前述しましたが、白樺文学館の内覧会は、10月の月例会時にお知らせした日時と異なります。

ご注意ください！！

**内覧会日程：11月4日（金）午前10時～**

となります。お時間がある方はぜひご参加ください。よろしくお願いたします。^^

**8・9月の来荘者数**

8月と9月の来荘者数を表にまとめました。ご参照ください。

	8月	9月
平成25年	272人	866人*
平成26年	124人	848人*
平成27年	131人	235人
平成28年	133人	165人



\*「竹灯籠の夕べ」実施の月

読書の秋、スポーツの秋、そして食欲の秋…

9月に比べて天気も安定してきて、歩くのにも心地よいです。11月は、先日お伝えした通り、団体のお客様が多くいらっしゃいます（詳細は日誌のシフト表に記載してあります）。ご対応、改めてよろしくお願いたします。



**次回の月例会は・・・**

次回の月例会は11月1日（火）午前9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

先月は諸事情により第114号の発行ができませんでした。大変申し訳ありません。（>\_<）以後、気を付けてまいります。

今年も気づけば残り2ヶ月余りとなってきました。これからが慌ただしくなりますが、みなさまにはお身体ご自愛いただきますようお願いいたします。

ところで、10月31日は、ハロウィンです。編集Tにはあまり馴染みのないものですが…今や日本の新しい行事としてクリスマスやバレンタインに次いで人気が高いようです。当日は駅や街中で「仮装かな？」と思われる人がいるかもしれませんね。



# 旧村川別荘だより

116

平成28年11月25日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、木村、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子1684番地

TEL:04-7185-1583(直通)

E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

## 月例会が開催されました

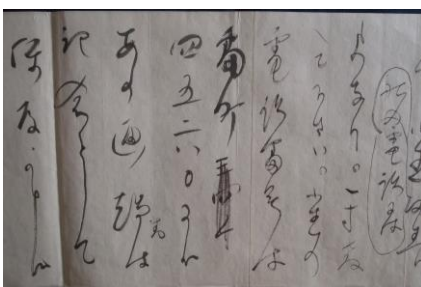
11月月例会が開催され、11月分・12月分のシフト調整を行いました！(\*^\_^\*)

## 楚人冠と漱石

今月の月例会では、杉村楚人冠記念館で1月9日(月・祝)まで開催している企画展「楚人冠と漱石～新聞と文学と」の内容を中心に、二人の関係を語る逸話も少し付け足して、杉村楚人冠と夏目漱石についてお話ししました。

### 1 東京朝日新聞の動向と二人の交流

夏目漱石が明治40年に東京朝日新聞に入社したことで、杉村楚人冠と漱石の二人の交流が生まれました。その背景には当時の主筆池辺三山による紙面改革があります。日露戦争が終わり、スクープ合戦では読者が獲得できなくなった状況で、三山は楚人冠を東北地方の凶作地やイギリスへ特派し、その通信が読者の反響を呼びます。一方で漱石は自ら小説を執筆するほか、若手を発掘して連載小説に推薦し、また文芸欄を主宰しました。三山のもと、楚人冠は



社会事業、海外事業で、漱石は読み物の充実で読者獲得に貢献していたのです。

漱石が会議のため

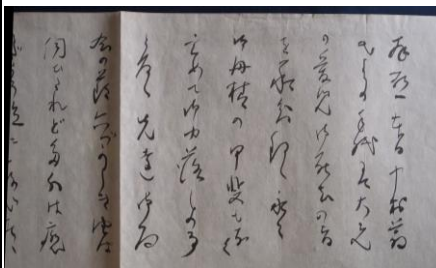
会社してくるといつも楚人冠のおごりで昼食をともにしていた二人ですが、あるとき二人が不仲だという噂を文芸誌に書かれます。この時は漱石が気を廻して、楚人冠の原稿を自分が主宰する文芸欄にもらうことで噂を打ち消しました。

しかし、明治44年に社内対立が原因で三山が退社すると、最も信頼した支柱を失った漱石は文芸欄を廃止し、会社に出てこなくなってしまう。

今回発見された手紙はそれより後の大正元年のも

のです。漱石は会社に出ない心境を「怒ったって僕のようなものがどう致す訳にも相成りかね」と説明しており、この時期にも楚人冠は本音を打ち明けられる相手だったことを示しています。電話について「一寸教えてください」と頼んだのも、会社のことについては楚人冠を頼っていたからでしょう。

### 2 娘の死と中村古峽



もう一通の新発見書簡は楚人冠の長女麗子(うらこ)が亡くなったときのお悔やみの手紙です。日付を見ると、麗子が

亡くなった次の日に書かれています。漱石がそれほど早く楚人冠の娘の死を知ったのは、楚人冠の友人であり漱石の弟子の中村古峽という人物が手紙で即日伝えたからです。家族ぐるみの付き合いだった古峽は麗子によくなついていたので、いちはやくその死を知ることになったのです。さらに、故郷は翌年に漱石の五女ひな子の突然死にも居合わせることになりました。楚人冠と漱石が共有した幼い娘の死という体験とともに古峽が居合わせたのは不思議なめぐりあわせでした。

### 3 「幸徳秋水を襲う」と「それから」

漱石の作品中、楚人冠の書いた記事が取り込まれたのが「それから」です。終盤の重要な場面の挿話に、楚人冠が書いた「幸徳秋水を襲う」の内容が主人公の友人の新聞記者が語る話として出てきます。「幸徳秋水を襲う」は社会主義者の幸徳秋水を訪ねて警察の監視を暴いたルポで、漱石はその内容を入れたうえで、この登場人物に「現代的滑稽の標本じゃないか」と語らせるのです。東京朝日新聞の読者から見れば、楚人冠の記事から三か月後に漱石の小説で同じ内容を読み、現代的滑稽という評価が漱石によって与えられた形となります。

#### 4 so much for～論争

『英語青年』という雑誌に楚人冠が書いた英文和訳の例で” Alas! So much for Sugimura -.”（嗚呼、杉村ならやりかねないことだ）とあるのを見た漱石が、あれは違ってないかと手紙をくれたことから、議論が始まりました。

そのなかで、楚人冠が自分の訳し方でいいと助言してもらったのは女性でした。漱石はこれに対して「君はとうとう女の賛成者を生け捕った」「そう女軍を引率して遣って来られては降参だ」といちいち冗談を返しながらか自分の意見を表明してきます。二人が笑いながら議論を交わしている様子が手紙から伝わってきます。

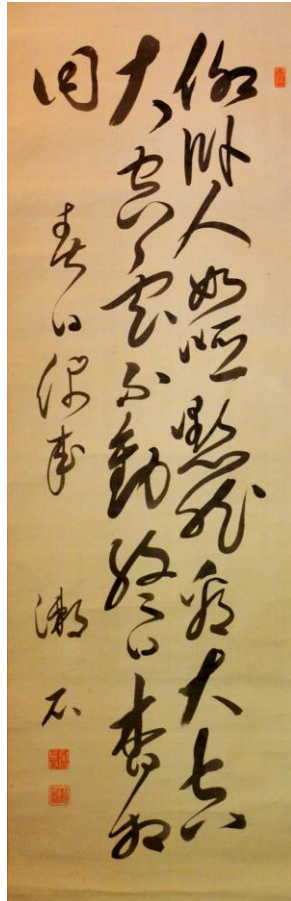
#### 5 漱石の病

明治43年に楚人冠が百部限定で出版した『厲人厲語』を受け取った漱石の礼状には、翌日に胃潰瘍で入院することが書かれています。この後、伊豆・修善寺へ転地療養中に吐血して倒れる「修善寺の大患」の前段階の入院です。その前日の手紙は漱石の人生の転機に関わるものとして重要です。

「修善寺の大患」後には楚人冠も修善寺へ漱石を見舞いに行っています。楚人冠の帰り際は漱石の日記に「午後一時楚人冠去る 大切に秋を守れと去りにけり」と記されています。これは『漱石全集』で確認できます。

東京に帰った漱石は「思い出すことなど」という随筆で修善寺の大患前後のことを書き始めます。そこに書いた漢詩を楚人冠から書いてほしい、と頼まれた漱石は、半紙にでも、という依頼にもかかわらず立派な絹に書いて楚人冠に贈りました。楚人冠はこれを掛け軸に仕立て、一緒に添えられた手紙を裏側に貼りつけて大切に保存しました。

じつは、これを書くときに漱石は「病中之作」と書くところを「春日偶成」と書いてしまいましたが、手



紙に「大兄さへ其意味を承知の上は他人は勿論構いなく候」（あなたさへ間違えたことをわかっていてくれれば、他人はもちろん関係ない）と書いてそのまま贈ってきました。親しい楚人冠が相手だからこそそうしたのでです。

#### ●まとめ

手紙を通して二人の交流を見ていくと、お互いに遠慮のないやりとりをしている様子が浮かんできます。大正時代に刊行された『漱石全集』の月報で楚人冠は漱石を「尊信する先輩」と言っていますが、年上の漱石の方が楚人冠を対等の仲として遇してくれることで、隔てのない関係が成立していたのです。

漱石が楚人冠を我孫子の別荘に訪ねたことはなかったようですが、こうして二人の関係を見ていると、もし漱石があと10年元気でいてくれたら、楚人冠に会いに我孫子にやって来たのではないか、そんな空想もしてみたくなりますね。漱石が亡くなったのは大正5年、修善寺の大患から7年、楚人冠が我孫子に別荘を持って5年後のことでした。

#### 連絡・意見交換など

##### ●旧村川別荘庭園だより

- ・手賀沼の話、山椒について等盛りだくさんでした。

##### ●庭園公開について

- ・日立経営研修所の公開は12月3日の予定です。

##### ●冬時間について

- ・12月より開始したいと思います。（開始と終了を30分短縮します。）

#### \*お知らせ\*

お気づきの方も多いかと思いますが、先日、新館奥の間のリニューアルを行いました。まだ完成ではありませんが、少しでもガイドにお役に立てる情報を展示していければと考えています。^^

#### 10月の来荘者数

平成28年10月の来荘者数は、**648人**でした！  
平成27年10月948人 平成26年10月346人  
平成25年10月340人…気づけばまもなく12月に突入します。年末までどうぞよろしく願いいたします！（\*^\_\*）

#### 次回の月例会は・・・

次回の月例会は12月1日（木）9時30分から旧村川別荘新館で開催します。新しいガイドさんの紹介を行います！ぜひ、ご参加ください♪



# 旧村川別荘だより

## 第117号

平成 28年 12月 26日発行  
旧村川別荘市民ガイド事務局  
我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課  
歴史文化財担当：須藤、木村、田中  
〒270-1166  
我孫子市我孫子 1684 番地  
TEL.04-7185-1583 (直通)  
E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

### いよいよ12月になりました。

12月に入り、季節も冬本番となりました。年の瀬と言われる12月はどうしても慌ただしく日々が過ぎていきます。今年一年を振り返りながら、また来年へ…気持ちも新たにしたいところですね。

今月号は、12月11日(日)に行われた「旧村川別荘市民ガイド10周年記念講演会」の内容も踏まえながらお送りします。(\*^\_^\*)

### 洋行の歴史

今月の月例会では、洋行の歴史について、その歴史的な背景をトピック的に挙げながら説明しました。また、11日(日)には旧村川別荘市民ガイド10周年記念事業として、村川夏子さんにご講演をいただきました。多くのご参加ありがとうございました。今月はその内容もお伝えしていきます。

#### ○洋行とは？

辞書で引くと、「欧米へ旅行、留学すること。戦前に使用された言葉。」とありました。確かに現代において“洋行”とはあまり聞きませんよね。

日本における欧米訪問の記録はその歴史を辿ると16世紀末の天正遣欧使節に遡ると言われています。その後、江戸時代になってからは鎖国体制がとられたため長く欧米訪問は途絶えましたが、18世紀の洋書解禁の流れから海外への意識が芽生え、欧米への派遣が行われるようになってきます。その形態は時代とともに様々な変化を見せてきます。

\* \* \* \* \*

#### ☆第一世代…幕府や藩の方針に基づいての派遣。

福沢諭吉や森有礼といった、政府の要請によって派遣された有識者が欧米に行き、幕末から明治に変わりゆく日本の新しい国造りに貢献する材料を持ち帰りました。また、明治初期には岩倉使節団が1年9か月に及ぶ国家事業で欧米視察に行き、その後の日本に多くの影



響をもたらしました。

#### ☆第二世代…新体制の中で選抜された人材の留学。

森鷗外と夏目漱石に代表されるように、新しい国となった明治10年頃から、政府に選抜され、洋行にいたる人々も出てきます。森鷗外は軍医としての派遣でしたが、充実した滞欧生活しました。一方、夏目漱石は書物にふけ、切り詰めたロンドンでの生活でしたが、帰国後小説家として成功しています。このようなことから、一部特権階級のみが許されていた洋行と言われる留学も徐々に広がりを見せ、新体制の中で国の人材の資質を高めようとしていたとも言われます。

#### ☆第三世代…私費留学生も現れ、遊学的な青年も。

永井荷風や有島武郎といった、父親が文明開化の過程に携わり、常に西欧を感じながら生きてきた人々が海外へ向かいます。それが新しい西欧との出会いとなりました。明治末期に近づく、国家の枠組みではなく、個人の自由と理想を追い求め、海外へ行くようになり、これが洋行の歴史の大きな変換点であったと考えられます。

#### ☆外遊としてのヨーロッパ

与謝野鉄幹と晶子夫妻は、観光旅行のような外遊を行いました。私的な旅行ではあったが、その後仕事に奮起する契機となったと言います。



以上のように、洋行の歴史を辿ると、国政づくり、学術が目的であった時代から、時を経て私的な思いや気持ちで欧米へ出かけることができる様相は、大きな変化でした。明治、大正、昭和、戦前に至る100年あまりの間に日本を取り巻く環境や欧米との関係には大きな変換が生じており、その変化は洋行に反映されていたと言えるでしょう。今は飛行機でどこへでも行ける海外ですが、歴史があって今に至っていることを忘れないでいたいと思います。



## 村川別荘市民ガイド 10 周年記念講演会

「村川堅固の洋行」村川夏子氏

12月11日(日)に記念講演会が行われ、「村川別荘市民ガイド10年のあゆみ」をご説明したのち、村川夏子さんによる講演会が行われました。ここでは、一部の内容を抜粋し、お伝えしたいと思います。

### ○堅固が洋行後に建てた家

はじめに目白台のお家の歴史、堅固が「住食衣主義」という考え方で、住むことが根本であり、家はある程度大きく大きな木があることが大切であるというお話をいただきました。その後村川夏子



講演会の様子

さんの10年の歩みをお聞きし、村川堅固の建築資料や絵葉書の整理を行い、様々な発見があったことを具にお話くださいました。以下にその要点をまとめます。

### ○絵葉書の存在

堅固は日本ではなく、ヨーロッパで絵葉書に触れ魅了されました。日本では明治33年から私製葉書(絵葉書)が許可され日露戦争時にブームが起きました。

絵葉書の種類を見ると、堅固の足跡を辿ることができ、ヨーロッパ留学時のものと、アメリカ視察、朝鮮出張そして日本のものとに分けることができたということでした。



そのヨーロッパ留学中の絵葉書と手紙の概要は全部で112通でありましたが、現在77通が見つっています。講演会では、これら絵葉書と2016年11月30日、講演会直前に見つかった旅日記をもとに、堅固がどのような留学生活をしていたのか、その一端について絵葉書を交えながらご説明いただきました。

### ○堅固の洋行

村川堅固は、明治34年12月武田ふさと結婚しますが、政府からの要請で留学することとなりました。ちょうど明治30年頃から文部省外国留学生の数が増えた時期にもあいまって、多くの日本人が海外へと向かいました。

### 一どこへ行ったのか一

1903年1月24日に横浜を出発した丹波丸に乗り込み、堅固の留学はスタートしました。そして、マルセイユ、ミュンヘン(一年)、ライン川方面への旅行、ベルリン、オーストリア、ブダペスト、プラハ、

パリ、北アフリカ、スペイン、ロンドン、オランダ、ベルギー、スイス、イタリア北部、ローマ、ギリシャ、エジプト…等、数多くの国を回り、西洋史に対する見識をさらに深めて1906年5月に神戸港へ戻ってきました。各絵葉書はとても鮮やかでしたね。

多くのことを旅日記に記した堅固は、ヨーロッパのみならず、各地の様相や暮らしを知り、体感しました。そして、ミュンヘン滞在中に娘が誕生した堅固はヨーロッパでの子育ての違いにも日記の中で触れ、また便利な都会暮らしの一方で貧困層があることも知りました。洋行を通して日本の風土と暮らしを再確認したことで、それが、堅固が唱える「住食衣主義」にも繋がったとされています。そして様々な文物を日本へと持ち帰りました。

\* \* \* \* \*

100年近く前とはいえ多くの国の「文化を知る」ということは、自国の文化を確認できる機会でもあり、今にも、そして未来へも繋がることだと思います。村川別荘が我孫子に残されたのも堅固がもたらしてくれた貴重な財産です。これからも大切にしていきたいと思います。村川夏子さんによるお話、とても臨場感があふれるものでした。当日は総勢50名近くのお客様にお越しいただきました。関係者のみなさま、本当にありがとうございました!!(\*^\_^\*)

## 11月の来荘者数

11月の来荘者数は817人でした。団体さまの対応、本当にありがとうございました☆

## 連絡・意見交換など

### ●景観あびこについて

ご紹介させていただきました。

### ●庭園だより

季節の鳥や植物を紹介していただきました。

## 次回の月例会は…

2016年の一年間、今年も多くの方々にお世話になりました。ありがとうございます。そして、村川別荘のボランティアガイド設立10周年の記念にも立ち会うことができ、光栄に思うと同時に、1つ1つの出来事を糧に、また前へ進んでいければと考えています。

2017年最初の月例会は1月6日です。  
みなさん、元気にお会いしましょう!(\*^\_^\*)

# 旧村川別荘だより

## 第118号

平成29年1月27日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、木村、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL.04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

### 2017年になりました！

新年を迎えました。気持ちも新たにしながら、一日一日をまた歩いていければと考えています。

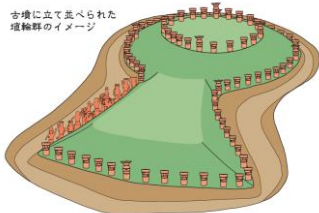
改めて今年もよろしくお願いたします！

### 埴輪について

今年最初の例会では、埴輪について勉強しました。

#### ○埴輪とは？

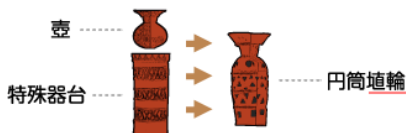
埴輪は古墳時代（3世紀半～7世紀）の権力者のお墓である古墳の墳丘に樹立された焼き物のことをさします。これは、古墳の荘厳化をする目的で作られたとされており、そのため古墳周囲や墳丘頂上などに樹立していました。「威信財」という言葉でも表現されます。『日本書紀』において、垂仁天皇32年7月の記事に、野見宿禰が今までの殉死にかえて、埴土（粘土）をもって人や馬やさまざまなものを象り土物を作り、これを埴輪と呼ぶようになったと書かれています。その系譜は弥生時代後期（2世紀後半～3世紀前半）に作られた吉備地域の墳丘墓に設置された「特殊器台」から発展したと考えられています。（特殊器台とは、実用品ではなく祭祀用の土器を載せるための台のことです。）



古墳に立て並べられた埴輪群のイメージ

#### ○埴輪の年代

古墳時代初期に野焼きで焼成され



た「円筒埴輪」が出現しました。そして、4世紀前葉の古墳時代前期になると家形・盾型・鶏型などの「形象埴輪」が出現します。そののち、5世紀中葉になると人物・動物埴輪が出現し、埴輪窯を採用し、埴輪を焼く場所も登場しました。6世紀中葉の古墳時代後期になると畿内では埴輪の生産が終了しますが、一方で東国は盛行し、6世紀いっぱいまで生産されていました。これは、制度の遅れなどによるも

のではなく、埴輪を樹立することに意義を感じていたからだということが、前述した埴輪の意味からもわかると思います。

#### ○房総における埴輪

房総の埴輪は、5世紀になってから作られます（香取市三之分目大塚古墳、木更津市高倍古墳）。我孫子においては、5世紀後葉の金塚古墳の円筒埴輪や朝顔形埴輪が初出例とされます。概ね5世紀から6世紀代に盛行する埴輪ですが、房総においては“下総型埴輪”と“山武型埴輪”が特徴的なものとしてあげられます。その特徴をまとめると…

##### <下総型埴輪>

円筒埴輪は三本の粘土紐を外面に貼りつけ小型で細身。そして、底径1：口径2：高さ4という比率になっています。人物埴輪は、吊り目が特徴で、短い腕に指表現がない小型の手があります。また一方では、形象埴輪の種類が少ないのも特徴です。⇒印旛沼や手賀沼周辺を中心として茨城県南部や東京都東部などに分布しています。

##### <山武型埴輪>

人物埴輪は足を含む全身像が多いのが特徴です。立体的な顔や多様な髪型、帽子やあごひげの表現。指を含めた腕の表現が豊かです。山武地域の方へ集中しており、古墳によって差異があるのも否定できません。



##### <搬入された埴輪>

一方で、市原市山倉1号墳、市川市法皇塚古墳がありますが、これは埼玉県鴻巣市生出塚埴輪窯で生産し、船で搬入していた可能性もあります。

このように、房総の埴輪だけを切り取ってみても特徴が異なるのがよくわかります。

#### ○我孫子における埴輪

我孫子にも5世紀後葉の金塚古墳はじめ、6世紀前葉の久寺家古墳、6世紀中葉から後葉にかけて、

子ノ神古墳群、高野山古墳群、中峠北1号墳、羽黒前古墳（下総型埴輪）がありますが、中でも高野山古墳と中峠北古墳群で出土した埴輪を見ると、ハケ目などがそっくりなことから同じ工人が作成したとも考えられ貴重なものとなっています。

### ○埴輪の終焉

葬儀方法の変化や横穴式石室の盛行など、様々な要因が重なって埴輪は姿を消していきます。同時に畿内産や東海産須恵器や金銅製碗の墓前祭祀と普及してきます。埴輪＝威信財としての意義が薄れることは、時代のニーズを捉えた流行と廃りがある現代と重ねてもそう珍しい現象ではなかったのかもしれないね。埴輪が当時どのような意味があったのか、どんな思いが込められていたのか、少しでも知るきっかけとなれば幸いです。（＾＾）

### 「なつかし！我孫子の街なみ」展

さて、今月は話題をもう一つ。現在、杉村楚人冠記念館で「なつかし！我孫子の街なみ」展を開催しています。「我孫子駅前の様子はどうのように変わったの？どこが昔から変わってないの？」をテーマに江戸時代から戦後までの様子を紹介しています。

我孫子は江戸時代以前よりありましたが、我孫子宿の様子を絵で紹介している初めての資料は、土浦のお殿様が江戸から土浦までの帰り道の様子を描いた江戸時代の地図です。その次に我孫子宿の様子が窺えるのは文章からです。文章を書いたのは、声楽家柳兼子と小説家の志賀直哉。ご存知のように彼らは大正時代に我孫子へとやってきて、この地に暮らしていました。兼子は聞き取りから、志賀は彼の小説「雪の日」から、駅前で何を買ったのかがわかります。そして、昭和2年になると我孫子駅前の様子を詳細に記している地図があります。この地図は、杉村楚人冠によって保管されていました。地図を作成した目的は定かではありませんが、電話番号も記されているので、日常に使うために作成したのでしょうか。この地図をよく見ると、生活に必要な八百屋や魚屋があります。その他にも、当時は必需品だった薪や炭屋があったり、その時代、最先端だった自転車屋や



▲寄贈された商店街の手拭い

時計屋があります。この年代の我孫子駅前の様子は、もちろん楚人冠が『続々湖脚吟』に書いています。それによるとパン屋とクリーニング店はなかったようですが、“住めば都”だったようです。

その後、昭和45年まで我孫子駅前の様子がわかる地図はありませんが、駅前の様子の変化は地図の他に写真でも確認



▲昭和45年頃の我孫子駅

することができます。駅前には、時代が経って駅舎が変わってもその様子は変わりません。その様子が変わろうとしたのは昭和45年。我孫子が市制された年でした。この年、市は我孫子駅前の開発予想図を紹介し、そこには未来の我孫子が描かれていますが、その計画が叶ったかどうかは別とします。今回展示のメインである寄贈された手拭いからは、当時の我孫子駅前の商店の様子がわかります。昔から続くお店があったこと、古くは履物や傘を売っていたお店が靴屋として時代の流れに乗って続いていたこと。そんな我孫子の街なみを地図や写真や手拭いから想像することができる展示となっています。3月5日（日）までとなりますので、ぜひご覧ください！！

### 12月の来荘者数

・平成28年12月の来荘者数は306人でした。  
寒い季節ですが身体に気をつけてくださいね♪♪

### 新規ガイドさん活動中！！

昨年10月に募集をしました村川ガイド第5期生の方々が続々とシフトに入ってきています。それぞれガイド開始の時期は異なりますが、みなさんで旧村川別荘を盛り上げていきましょう～☆(^\_^)/

### 連絡・意見交換など

- 庭園だより
- ひなのまつりについて

今年は2月21日（火）～3月5日（日）まで行います！詳しいことは2月1日に確認します！

### 次回の月例会は…

新しい年を迎えて身も心も心機一転。今年もみなさんにとって良いことがありますように…。また一年旧村川別荘をよろしく願います！（\*\_^\*）

平成29年2月27日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、木村、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

# 旧村川別荘だより

119



## 市民ガイド月例会が開催されました

2月の月例会が開催され、3月と4月分のシフトを調整しました。早いもので、2月もラストスパートです。本当に早い……。。

2月21日(火)から3月5日(日)までは、「ひなのまつり」です！



ぜひとも、ご協力をお願いいたします！

また、2月25日(土)～2月28日(火)まで行われる文化財展のお知らせもあります。ぜひ、ご一読くださいね。

## テーマ展示「白樺派と我孫子」

今月は、白樺文学館で開始されたテーマ展示「白樺派と我孫子」についての話を白樺文学館・稲村学芸員より説明をしました。

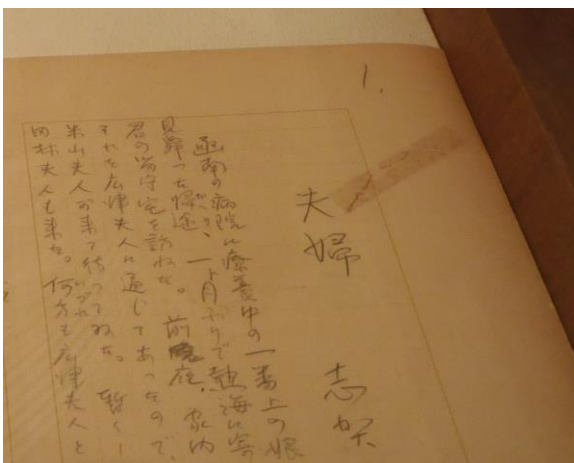
ここでは、その後、現地へ行った編集Tが写真も織り交ぜながら、今の展示のご紹介を行います。(\*\_\*)

### ●展示紹介

今回のテーマ展示では、注目の展示として志賀直哉直筆の「我孫子<sup>がみひょうきょうきよす</sup>厂明旧居図」(我孫子志賀邸の図面)を中心に、志賀関連の資料を数多く展示しています。

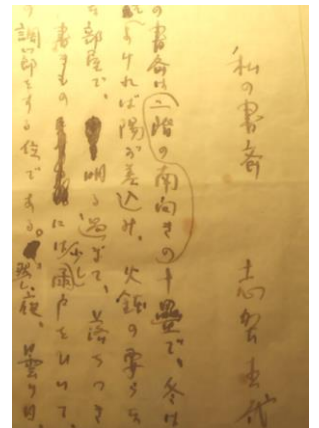
### ①志賀直哉 原稿「夫婦」(1955)

1955(昭和30)年7月7日付の朝日新聞に掲載されたものです。夫婦について思いや気持ちをもぐらせた作品です。



### ②志賀直哉 原稿「私の書斎」(1947)

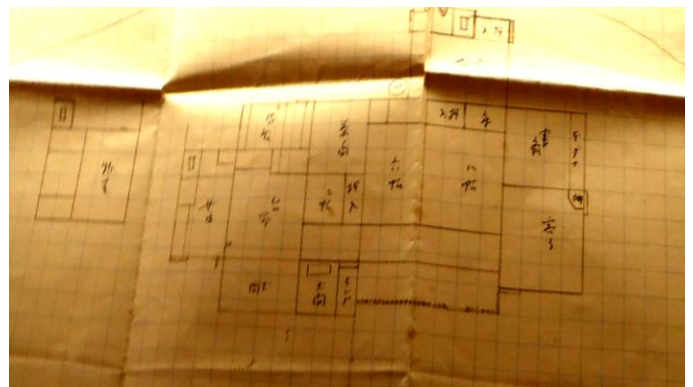
1947(昭和22)年7月1日発行の雑誌『婦人』創刊号に発表されたもので、1946(昭和21)年10月の執筆とされています。新宿淀橋より転居した世田谷区新町在往時のことを描いているものと思われます。



\* \* \* \*

### ③志賀直哉直筆「我孫子厂明旧居図」について

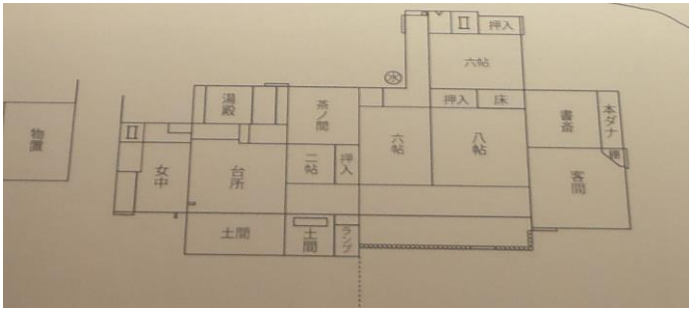
我孫子に所在する志賀邸は、生活の場である母屋(1915年築)、「二階家」と呼んだ崖の上の離れ、茶室風書斎からなっていました。母屋は茅葺の和式、東側に洋風の書斎を持ったため、和洋折衷式であったとも考えられます。この点では旧村川別荘と構造が変わらないことがわかります。現存している我孫子市緑の志賀直哉の書斎は、設計に志賀自身が深く関わり、工事は、バーナード・リーチの三角椅子を製作したことで知られる地元大工の佐藤鷹蔵が担当したと伝えられています。志賀の細かなこだわりが少し垣間見えるかもしれません。



▲実際の図面(一部分の写真。白樺文学館に展示してあります!!)

裏面に、この図面を新しく書き起こした図があります。確認してみてください。

▼新しく書き直した図面（一部分の写真です。）



どうでしょうか。志賀は、我孫子の書斎で代表作品である「暗夜行路」の大半を執筆するなど、彼自身にとって、重要かつ大切な時間を我孫子で過ごしました。このことは、忘れないでいただきたいですね！

**ひなのまつり特集！！**

**♪ひなのまつり開催中♪**

2月21日（火）～3月5日（日）

今年も鷲見さんをはじめ、多くの方のご協力により、「ひなのまつり」が開催中です。

今年のコンセプトは、“小さなおひなさま”たち。クルミやドングリ、トチノキなど、自然の物を利用したおひなさまたちが、



今年の干支である“酉”と共に、旧村川別荘を、より華やかに、鮮やかな色を添えてくれています。本当にありがとうございます！！

ご家族やご友人など、まだ見たことがない！という方にはぜひ見て行っていただきたいなと思います。この2週間、お天気も良い日が多いことをみんなで願いましょう～！シフトの方でも皆様にはご足労をおかけいたしますが、ぜひともよろしく願いいたします！（\*\_^\*）



**文化財展と寄贈作品展について**

2月25日～28日までの4日間、我孫子市民プラザで文化財展・寄贈作品展を開催します。

**●文化財展**

昨年度修復を行った中里薬師堂薬師三尊像をはじめ、今年度修復を行った午・申・酉像を公開します。また、平成4年に市指定文化財となった「裁縫雛形」を20点ほど展示します。

**●寄贈作品展**

寄贈作品展では、ジャーナリストを中心にした軸や白樺派を中心とした今月特集した我孫子にゆかりのある志賀直哉の書等を展示します。

26日には、フレッシュコンサートも行われます。※25・26日には、午後1時より職員によるギャラリートークを開催予定。

無事に終了いたしました！！  
ありがとうございました。

▼文化財展のチラシです。



**連絡・お知らせなど**

**●庭園だより**

・恐竜や鳥の話をしてくださいました。



**●月例会と内覧会のお知らせ**

・**3月7日（火）**に杉村楚人冠記念館、白樺文学館において展示内覧会を行います。つきましては、月例会もその日に合わせて開催しますので、お間違えのないようお気をつけください。

**●ちばTV 撮影のご協力ありがとうございました。**

2月1日（水）は、千葉テレビの撮影へのご協力ありがとうございました。2月10日に無事放映されましたね。私もただただほっとしています（苦笑）。

**1月の来荘者数**

平成29年1月の来荘者数は、179人でした。

（参考）過去の来荘者数 平成28年1月 197人  
平成27年1月 165人 平成26年1月 315人

**次回月例会は・・・**

**平成29年3月7日（火）9時30分から杉村楚人冠記念館（※内覧会に合わせて、月例会を行います！いつもと場所が変わります。）**

お間違えのないように、お越しく下さいね！  
よろしく願いいたします！（\*\_^/）

平成29年3月28日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：須藤、木村、田中

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk\_bunka@city.abiko.chiba.jp

# 旧村川別荘だより

120

## 市民ガイド月例会が開催されました

3月の月例会が開催されました！

あっという間に年度末を迎えましたね。季節の変わり目でもありますので、お身体十分気を付けてくださいね・・・！ (\*\_\*)

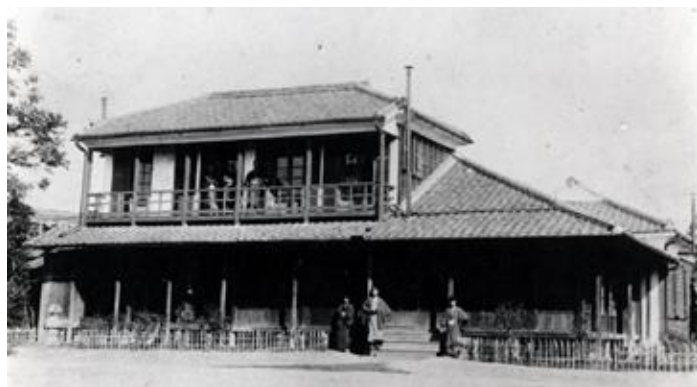
## 没後70年記念展示「血脇守之助」

今月の月例会は、3月7日（火）に杉村楚人冠記念館で開催しました。この日より、杉村楚人冠記念館では、没後70年を記念し、「血脇守之助～我孫子が生んだ歯科医学の功労者」の展示が開催されています。月例会では、杉村楚人冠記念館の高木学芸員が展示を解説しながら、血脇守之助について、理解を深める良い機会となりました。

ここでは、その内容について、今一度振り返ってみたいと思います。

### ●歯科医学確立の道

血脇守之助は、我孫子尋常小学校（現・我孫子第一小学校）の卒業生です。校長先生でもあった、杉山英先生に見込まれ、勉学に励みました。そして、12歳にして上京し、様々な学校に通い、22歳で慶応義塾を卒業し、新聞記者を経て新潟県三条で英語の教師となりました。しかし、英字新聞で歯科医の広告を見つけた血脇はその将来性を直感し、上京を決意し、高山歯科医学院（現・港区）に学びます。

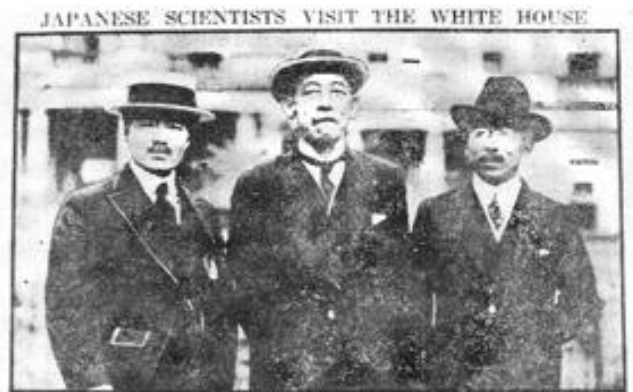


▲高山歯科医学院校舎（歯科大提供資料）

歯科診療の普及のための清国に渡った血脇は、帰国後に高山から学院を譲渡され、東京歯科医学院を開きます。そして、明治41（1908）年に、東京歯科医学専門学校へ昇格を果たします。

### ●野口英世を世に出す

血脇が出張診療に取り組んでいた高山歯科医学院時代に、出張で訪れた会津で出会ったのが病院に書生として住んでいた野口清作（のちの野口英世）でした。熱心に取り組む野口の姿に驚いた血脇は、野口の上京後、寄宿舎に住ませ、学僕として収入を得させました。さらに、野口が幼少期に指に負った火傷が将来の傷害になると考えた血脇は、先生を紹介し、手術を受けさせました。その結果、野口は医術開業後期試験も合格し、さっそく高山歯科医学院で講義を担当するようになりました。



▲血脇が米の際に随行した時の写真（歯科大提供資料）

やがて、野口はアメリカ留学を志すようになりますが、渡航直前の送別会でお金を使いこんでしまい、血脇のもとへ謝りにきました。血脇は呆れながらも、借金をしてまで野口の渡航のためにお金を工面し、そしてアメリカへと送り出したのです。その結果、野口は梅毒スピロヘータの純粋培養に成功するなど、数々の功績を残し、血脇の恩に応えました。

そして大正11（1922）年血脇は訪米し、38

日間にも渡り、血脇に随行し歓待をします。その後、2人は会うことなく、この訪米が野口英世と恩人血脇守之助が共に過ごした最後の時間となりました。

●郷土のために

血脇は、幼少期を過ごした我孫子でお世話になった杉山英先生には特別な思いを抱いていたようです。杉山の退職後は、血脇をはじめ、同窓生が退職後の生活資金を募り、杉山に



▲杉山先生の碑 (市教委撮影)

寄付、そして伽羅の木を贈りました。さらに「杉山英先生之碑」を建立してその功績を後世に伝えました。現在、碑は大光寺境内に残り、伽羅の木は、区画整理に伴い我孫子市役所駐車場の一角に移植されています。

一方で、杉村楚人冠や嘉納治五郎、村川堅固らが中心となって活動していた手賀沼干拓反対運動に、血脇も参加していました。我孫子という郷土の景観がどうなるのか、気になっていたのです。



▲血脇守之助 (歯科大提供資料)

現在の我孫子市内には、血脇を  
 偲ぶ碑が建てられています。「血脇先生謝恩之碑」ももとは、水戸街道沿いの血脇の生家跡に建立されていましたが、昭和 53 (1978) 年に都市計画道路造成に伴って手賀沼公園に、そして平成 15 (2003) 年に公園再整備に伴い、公園内テニスコート脇に移されました。

この石碑は、東京歯科医学専門学校が高山歯科医学院から数え、創立 50 周年にあたる昭和 15 年に建立されたものです。除幕式には、関係のある東京からはもとより、地元の我孫子からも多くの人々が訪れ、その血脇の功績を称えました。

血脇守之助という人物が、我孫子にいたということ、それが郷土の誇りとなった瞬間でもありました。

\* \* \* \* \*

郷土“我孫子”が育んだ「血脇守之助」。その生涯には多くの人々との出会いや別れ、そして我孫子へ



▲除幕式 (歯科大提供資料)

の思いがありました。血脇の没後 70 年という節目の今年。今一度、血脇守之助について学ぶきっかけの一助となれば嬉しいです。(\*\_^\*)

(展示は5月14日(日)までとなります。)

「ひなのまつり」について

♪ご協力ありがとうございました♪(m(\_)\_m)

期間：2月21日(火)～3月5日(日)

今年も鷺見さんを中心に、多くの方のご協力により、「ひなのまつり」が無事に終了いたしました。

今年は、クルミやドングリ、トチノキなど、自然の物を利用した“小さなおひなさま”が並びました。酉年の鳥たちも、本当に素敵でしたね!

会期中の来荘者数は、**1,150人!** 変わらないの人氣ぶりです。今年もシフト含めて、鷺見さん、ガイドの皆様にはお世話になりました。



本当にありがとうございました!(\*\_^\*)

連絡・お知らせなど

●庭園だより

- ・貝塚や花粉症についてお話していただきました。

◎講演会「血脇守之助の生涯と功績」

4月22日(土) 14:00～ 於：アビスタホール

2月の来荘者数

平成29年2月の来荘者数は、**1,026人**でした。

(参考) 過去の来荘者数 平成28年2月 1,026人

平成27年2月 1,072人 平成26年2月 1,006人

次回の月例会は・・・

**新年度最初の月例会は平成29年4月6日(木)**

**9時30分から行います!**

3・4月は日程がいつもと異なります。お間違えないように、よろしく願いたします!(\*\_^\*)